

加藤三郎編著「愛知県図書館史年表資料  
考説——愛知県における図書館のあゆみ」  
中部図書館学会刊, 1981.3

本書は『中部図書館学会誌』に連載したものの合冊で、著者の十余年にわたる研鑽の結晶である。

図書館年表の作成は、図書館史研究の基礎作業ともいうべきものであるが、これまでの年表の多くは、図書か雑誌論文の一部としての位置にあり、年表のみの単行書は数少ない。また、特定の一図書館の年表は多いが県全体を対象とした年表はまだ少ない現状において、本書は今後の年表作成に示唆する点が多いと思われる。

年表はまずもって正確であることが要請される。本書は記載された事項を裏づける資(史)料を実に丁寧に紹介している。

例 明治3(1870)年6月——名古屋藩、名古屋七間町の寺社奉行所、地方御勘定所の跡(現在東海郵政局の位置)に藩学校として「洋学校」を開設

この事項には「愛知県教育史」、「名古屋教育総覧」、「名古屋の史跡と文化財」、「鯉光百年史」から該当個所が紹介されている。

図書館史の分野に限らず、年表には出典を明記することが近年要請されている。出典明記によって年表は資料検索上役立つことができるし、克明な資料紹介は、無味乾

燥な年表のイメージを払拭し、年表に“読む”おもしろさを与える。

さらに年表は断片的なもので、前後関係をつかみにくい制約をもっている。内容が詳細になればなるほど、適切な索引が必要となる。日本においては索引付きの年表はきわめて少ない。年表の利用価値を高めるものとして、索引の必要性が指摘されていた。(天野敬太郎「図書館年表の研究」『図書館界』26巻2号)

本書には、「館名・事項索引」「人名索引」がある。今後作成される年表は索引付きがおそらく常識となるのではないだろうか。

ただ残念なことは、愛知県における図書館の歩み(1870~1979)が、日本の図書館史や社会・文化の状況と、どのように重なりあうかといった対比がなされていない点である。

本書は随所にく注>を挿入し、一事項の確認に著者がいかに誠実であるかをしのばせる。“地方の時代”は、こうした地味な作業をこつこつと続ける人々の息吹の中に、確実に根をおろしているのではないだろうか。

(索引課 鈴木尚子)